
79巻1号

2024年1月1日

YAA 天文会報

(1~3月号)

799号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



NGC1499 カリフォルニア星雲

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正本

2024年（令和6年）が明けました。気候変動や紛争など先行きの見えない世界ですが、今年は明るい話題が多くなることを祈りたいです。

コロナ禍以降、会員の皆さまの寄稿による会報作成・Webサイトでの公開のみの活動となっていますが、引き続きYAAへのご協力をお願いいたします。なお次号会報は、1946年10月に会誌第1号を発行してから通算800号となります。

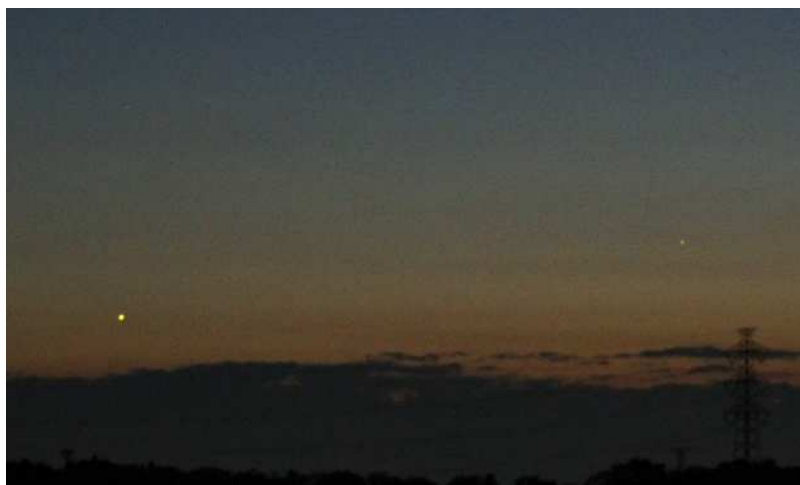
2024年は、日本から見ることのできる日食・月食はなく、火星の接近も、金星の最大光輝もなし、三大流星群は8月のペルセウス座流星群が月明りに邪魔されず好条件のみとちょっと寂しい一年です。その中で、昨年1月に発見された紫金山・アトラス彗星（C/2023 A3）が10月に0等前後までになると予想されています。彗星の場合は期待を裏切られることが多々ありますが、楽しみにしたいと思います。

1月の天象では、しぶんぎ座流星群は極大が4日18時、さらに夜半に月が昇ってくるので条件は悪いです。9日早朝の南東の空に、細い月（月齢26.9）と水星、金星、火星、アンタレスが集まって見えています。南東の視界が開けた場所で撮影してみたいです。その水星は12日に -0.2 等の明るさで西方最大離角になります。

2月は、8日の明け方南西の低空で、月（月齢27.4）、金星、火星が三角形を作るように並んで見えます。今年は閏年ですから29日まであります。

3月も8日の明けの空、東南東の低い空に、月（月齢26.9）と金星、火星が並んで見えます。1月から3月までのそれぞれの並びを撮影し比較するのも面白いと思います。11日の夕空では月齢1.0のとっても細い月の下側に -1.4 等の水星が接近して見えます。これも楽しみです。

下の写真は、昨年7月20日に撮影したもので、夕焼け空を背景に左側に金星、



右側に水星（金星より高度が少し高い）が写っています。

諸々とフラット補正が上手くいきません

山形幹夫

オーストラリアから帰って来てから次回遠征に向けて機材の見直しを検討しています。10月から選定し、購入した機材が懸念したことがその通りに良くなかったり、期待通りの成果が得られなかったりで八方ふさがりの状況です。

(1) ミラーレス一眼カメラを購入

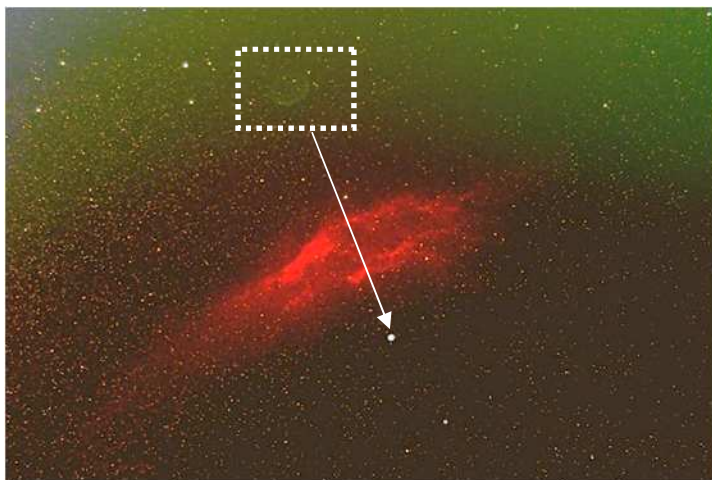
ニコンから天体用ミラーレス一眼カメラは発売になりそうもないので、普通のカメラを購入。H α 線の感度が低いので次項も併せて購入。

(2) ミラーレス一眼カメラ用赤色補正フィルターを購入

H α 線の感度が低いカメラを天体用を使用する場合、撮像素子の前にある赤外光カットフィルターを交換する改造が一般的です。この場合白い星雲も赤く発色してしまうことが欠点です。ところがカメラ改造せず同様な効果が得られる光路中に配置して使用するフィルターがあるというのでそれを購入。(1)から(3)項の機材で撮影した画像が本ページのカリフォルニア星雲です。フィルターが原因で輝星のゴーストが発生し写り込みました。点線囲みの中に淡い楕円形のゴースト像があります。やはり改造必要な。

(3) FSQ85-EDPの新型レデューサーQB0.73×を購入

この望遠鏡は従来から0.73×のレデューサーがありました。しかし星像はイマイチ、カメラによる光束切れが大きく周辺減光が顕著などの欠点がありました。これらを修正した新型が出たということで早速購入。これまで一眼レフカメラのミラーによる光束切れが顕著でしたが、随分改善されました。だったらミラーレス購入しなくても良かったと、ガッカリ。



それに加えフラット処理が上手くいかなくなりました。表紙も左の画像も同様に画面上側が顕著に減光処理過剰で周辺部が明るくなっています。これから対応策としてフラット撮影に使用する拡散板に迷光防止の処理

をしたいと考えています。対策が成功しましたらご紹介させて頂きたいと思います。

不具合情報共有はメールください。Hgb01131@nifty.com まで。

【表紙写真】NGC1499カリフォルニア星雲 2023年12月8日 撮影地：入笠山
FSQ-85EDP+QB0.73×レデューサー f=330mm F3.9 Nikon D810A ISO3200 120秒×30
APS-Cサイズ保存

日月星の伝承を訪ねて (78)

横山好廣

横浜金沢の星 ④

今回は月見と月待の報告をしたい。月見については、その項目ごとにまとめて記述し、特筆した記録は話者についても記した。

月見

- ・名称 お月見・十五夜・十三夜。
「お月見のお祭り」小泉すぎ氏(80)(釜利谷 1982. 5. 29)。
- ・時期 旧暦八月十五夜、十三夜。
商店では十三夜を早く飾ると大晦日のケリが早く付くと言って早く支度をした、小峰喜四郎氏(81)(釜利谷 1982. 8. 20)。
早く飾ると農作業が早く片付き豊作になる、小林マキ氏(74)(釜利谷 1983. 11. 13)。
- ・場所 月のよく見える縁側や窓際に卓袱台や机などを出して供える。
団子・ススキ・お神酒・果物を三方に載せて船の上供えた、黒川吉氏(78)(野島 1982. 7. 27)。
- ・お供え物と容器
団子等 一升の米(上新粉)で作るため、十三夜の団子のサイズが大きい。牡丹餅を供える家もある。
十五夜—15 個 十三夜—13 個
三方、重箱、皿等に供える。
子供たちの団子突きや庭の柿を取ることを許容し、逆に取られることは縁起が良いとされた。
団子は家の人が居るときに突くのがよい。
結核の家には行かない。
ススキなど 一升瓶、一升徳利、白鳥徳利にススキなどを挿す。
ススキ・女郎花・ボウズ(吾亦紅)・ミズヒキ。
数には拘らない。十五夜に 5 本・十三夜に 3 本。
畑作物 里芋・サツマイモ・枝豆など。
殊に里芋は欠かせない。
他に供え物が揃わなくてもサトイモだけは供えるものだ。
きれいに洗ってお皿や重箱に供える。
* 月見と畑作の関係が深いことが窺われる。
豆腐 お供えに欠かせない。月見になると豆腐屋が売りに来た。
重箱、井、深鉢などに水を張り、包丁を入れずに一丁ないし

二丁のまま供える。

豆腐は普段口にする物でなく、特別なときの御馳走。

豆腐は名月を写すために供えた、小峰喜四郎氏(81)(釜利谷 1982. 8. 20)

豆腐を供えない、斉田亀三郎氏(80)(柴 1981. 10. 3)

*豆腐を供えるという回答がほとんどである。豆腐を供える意味は採録出来なかったが、豆腐が大豆製品であることを考えると畑作物と月見の関係が此処にもある。

果物 柿、栗、ザクロ。

お神酒 一合徳利

燈明 野本芳五郎氏(91)(富岡 1983. 7. 25)、浜田八十八氏(73)(富岡 1983. 7. 26)、森喜三郎氏(83)(釜利谷 1982. 6. 5)

- ・農事 「十五夜お月さんを畑で見せろ」分葱の種蒔きを十五夜迄に済ませ、畑で分葱の種に月見をさせろという意味、斉田信夫氏(78)(柴 2010. 9. 19)。

*畑作と月見が繋がってくる。

- ・占い 小生の調査では採録出来なかったが「氷取沢の民俗」『横浜市釜利谷開発地区文化財研究調査報告書・歴史民俗篇』(1976)に月見に麦作を占うことが記されているので参考に報告する。「十五夜 この夜月が見事に顔をだすと、来年の大麦はあたるといわれ、逆に月が雲にかくれると、大麦の作はあまりよくない」「十三夜 月がでれば来年の小麦の作はあたり、逆の場合は小麦の作は良くない」

*氷取沢は釜利谷に隣接する磯子区の地域。

- ・禁忌 片月見を嫌い、月見の御馳走を他所では口にしない、森喜三郎氏(83)(釜利谷 1982. 6. 5)。

*影膳の俗があったことが想像される。

右の写真は1982年頃、釜利谷の農家で月見を再現してもらったものである。

机のススキを左右の白鳥と貧乏徳利に挿し、手前右に月見団子、左に豆腐。後ろには右から里芋、柿、サツマイモと賑やかである。月見が大切な行事であったことがわかる。

中間のメロンは今風。



* 月見の意味に関する伝承を採録することは出来なかったが、里芋や豆腐の事例や柴の分葱の植え付け、氷取沢の麦作の例から、月見と畑作物の関りが深

いことが窺われる。月は時節や農事を知らせる大切な存在であり、その月を丁寧祭りに祭る畑作物の豊作を願うと素朴な気持ちが月見のお供えなどから見えてくる。里芋や豆腐は団子よりも重要な位置を占めていることは、そのことを如実に示している。

月見を稲作儀礼の一環として捉えきれないところに民俗学の奥深さを感じる。かつて、『イモと日本人』（坪井洋文著）に啓発されたことを改めて思い出し、大昔からのイモと日本人の繋がりを、現代のお月見に想像すると、愉快になる。

月と海の潮汐を考えると漁と月の関係は深い。野島（漁業）で月見に船にお神酒・団子・ススキ等を供えたという事例は大変興味深い、黒川秀吉氏（78）（野島 1982. 7. 27）。これに近い例として、三浦市白石町の船玉様に榊・お神酒・真鯛や金目鯛などのいい魚を供え、ススキ・団子は供えない、浦島範章氏（97）（三浦 2015. 1. 19）。静岡市清水区由比の船玉様にお神酒・ススキ・へそ餅などを供えた、望月忠吉氏（95）（静岡 2012. 9. 10）。月見には、畑作・稲作・漁業の三つの視点がある。

二十六夜待

- ・ 旧・十一月二十六日、月がお船のように揺れながら上がってくる。念仏をあげながら待っていた。見ることは難しいものであった。戦後行われなくなった、鹿島嘉助氏（・）（富岡 1983. 6. 12）。
- ・ 旧・八月二十六夜に月の出を拝んだものだ、浜田八十八氏（73）（富岡 1983. 7. 26）。
- ・ 旧・九月二十六日、海辺で夜中の月の出を待った。千葉の山から、月が宝船の形で上がってきた、斉田亀三郎氏（80）（柴 1981. 10. 3）

参考 富岡の野本氏からは東の方角に明け方に出る三日月状の月の傾きから天気を予報したという話を聞いた。二十六夜待とはいえないが、明らかに二十六夜前後の月だ。因みに、月が立っていると天気が続き、受け月のときは天気が変わり雨が近いという、野本芳五郎氏（91）（富岡 1983. 7. 25）。

- * 二十六夜待ちの伝承はいずれも漁師集落での採録である。実施月が異なるのが気になる。一方、金沢区内の月待塔については、庚申塔などを含め他の石塔類は多いのに未見である。

終わりに七夕に関する伝承などを採録することが出来なかったことを付け足して本稿を終わる。 (了)

天 象

相原 榮

1月

水星：明け方の南東天、前半は観望好期 +0.2~-0.2等 へびつかい→いて座

金星：夕方の南東天で高度を下げる、月初は観望好期 -4.1~-4.0等 さそり→へびつかい→いて座

火星：太陽方向、観望困難 +1.4~+1.3等 いて座

木星：夕方南中し夜半前に沈む -2.6~-2.4等 おひつじ座

土星：宵の南西天、夜半前に沈む +0.9~+1.0等 みずがめ座

4日 18h しぶんぎ座流星群が極大の頃
(夜半過ぎ月明かりで悪条件)

6日 05h49m 小寒

9日 明け方の南東天低空で月・火星・水星・アンタレスが集合

10日 明け方の南東天低空で月・水星・火星が集合

11日 20h57m 新月

14日 夕方の南西天で月と土星が接近

18日 宵の空で月と木星が並ぶ

20日 23h07m 大寒

深夜の西天で月がプレアデス星団(M45)に接近

26日 02h54m 満月

28日 明け方の東南東天低空で水星と火星が大接近

2月

水星：明け方の南東天低空で高度を下げる -0.3~-1.7等 いて→やぎ→みずがめ座

金星：明け方の東南東天で高度を下げる -4.0~-3.9等 いて→やぎ座

火星：明け方の南東天低空 +1.3~+1.2等 いて→やぎ座

木星：夕方の西天、宵に沈む -2.4~-2.2等 おひつじ座

土星：太陽方向、観望困難 +1.0~+0.9等 みずがめ座

4日 17h27m 立春

5日 明け方の東天で月とアンタレスが接近

8日 明け方の南東天低空で月・金星・火星が集合

10日 07h59m 新月

11日 夕方の西天低空で月と土星が並ぶ

12日 宵の西天で月と海王星が接近

15日 宵の西天で月と木星が並ぶ

19日 13h13m 雨水

22日 明け方の東天低空で金星と火星が接近

24日 21h30m 満月

3月

水星：夕方の西天で高度を上げる、月末は観望好期 -1.5~+0.5等 うお座

金星：明け方の東南東天で高度を下げる -3.9等 やぎ→みずがめ座

火星：明け方の南東天低空 +1.2等 やぎ→みずがめ座

木星：夕方の西天、宵に沈む -2.2~-2.1等 おひつじ座

土星：明け方の東天低空 +1.0~+1.1等 みずがめ座

5日 11h23m 啓蟄

8日 明け方の東南東天低空で金星・火星・月が並ぶ

9日 明け方の東天低空で月と金星が接近

10日 18h00m 新月

11日 夕方の西天低空で月と水星が接近

14日 宵の西天で月・木星・天王星が集合

15日 宵の西天で月がプレアデス星団(M45)に接近

20日 12h06m 春分

22日 明け方の東天低空で金星と土星が大接近

24日 おとめ座流星群(活動期間 1/25~4/15)が極大の頃

25日 16h00m 満月

17h57m 月の出が半影月食(18h34m 頃半影の外に)